

ケイアイグループ店舗・事業部紹介

ケイアイホーム(アパマンショップ)各店とケイアイグループの各事業部、支店をご紹介します。



(株)ケイアイホーム福山駅前店 店長 石田 康治

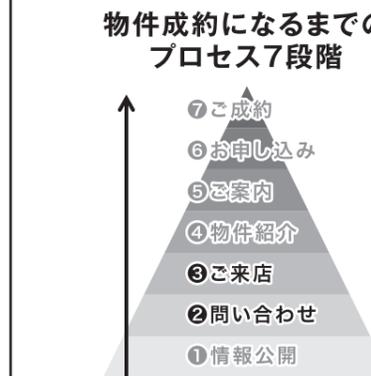
今回は、(株)ケイアイホーム福山駅前店をご紹介します。

心からのお付き合いだったから、大切な宝物を持てました。

私は入社して2年目で副店長、その3ヶ月後に福山駅前店の店長を拝命いたしました。一見順調な昇進をして来たように見えますが、実は人には言えない苦しみもありました。ある時期、6人のスタッフが相次いで辞めたことがあり、店長としてスタッフの心の掌握ができていなかった等々、本当に心底落ち込みました。そんな時、励ましてくださったのが、昔から親しくお付き合いさせて頂いていた一人のオーナー様でした。「大丈夫！今がど

ん底、これ以上悪くならない」と。涙が出ました。こんな私でも、心から心配してくれる人がいるのだと思いました。しかもそれが、オーナー様からでした。特別なことです。私が店長になった時もお祝いのお言葉やアドバイスを頂きました。(笑)そのオーナー様に初めてお会いしたのは3年ぐらい前のことになりました。空室だらけの物件を抱えて悩まれていたのを、私と一緒に何とか満室にしました。その時からの付き合いです。それまで管理していた不動産屋さん、空室のまま何もしていなかったのです。福山ではこのようなケースがたくさんあって、多くのオーナー様は管理会社を変えることになりかなり抵抗があるみたいです。あの時、手放しで喜んでくださっ

(株)ケイアイホーム 福山駅前店 〒720-0066 福山市三之丸町1-4 キャスパ1F



この流れを無視した『空室対策』は無意味であり、無駄な投資 プロセスの認識が重要!!

このコーナーでは「空室の悩み」を解消するための方法を解説いたします。今回は、そのプロセスを逆順に追ってご説明します。

▼紹介する為には… 店舗からの物件紹介の方法は幾つかあります。現在はインターネットでの紹介が主流となります。電話、メール等の問い合わせから来店いただけるPV(ページビュー)200回に対して1回確率(反響来店率)は約40%です。便利な場所やエリア内に店舗があることで来店率は上がります。

▼お問い合わせは… たたく為には… 【プロセス2問い合わせ】(※次回に続く)

オーナー様の「空室の悩み」を解消！ Vol. 4

ケイアイ通信

2015年 10月号

地方移住の可能性と課題について

地方創生論議が本格化する中、具体的テーマとなっているのが「地方移住」です。地方創生は簡単に言えば地方に住む人の数を増やすことで、地方自治体にとっては外部からの移住者を増やすことが大きな目標となっています。そのためにはどういう世代にどのような動機で来てもらうのか、明確なビジョンと戦略が求められています。

地方移住の主役はアクティブシニア

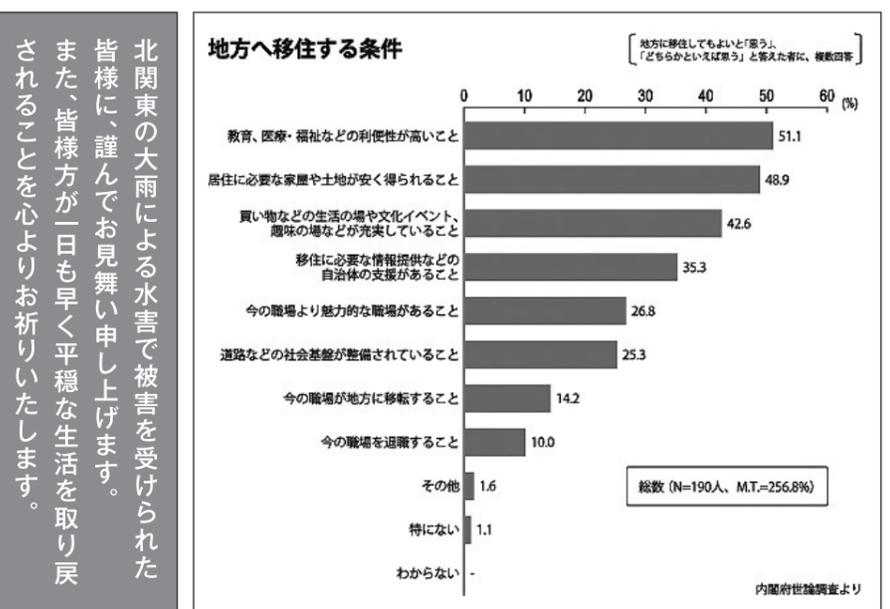
地方移住の第一の対象者と思われるのが、団塊世代(1947〜49年生まれ)で現在約700万人を中心とするアクティブシニア層です。政府が6月末に閣議決定した「まち・ひと・しごと創生基

5割以上の若年世代が地方移住に関心

地方移住に関するここ数年の傾向で特筆すべきは、20〜40代の若い世代にも関心が高まっていることです。内閣府が昨年10月に発表した世論調査によれば、都市に住む人で「地方に移住してもよい」と考えている人の割合は20代が52%

本方針2015」でも、元気な高齢者をターゲットにした「日本版CRCRC構想」が盛り込まれました。これは東京圏などに居住する高齢者が自らの希望に応じて地方に移り住み、地方大学などの生涯学習や地域社会との協働、多世代との交流などを通じて健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができる共同構想です。

30代が58%、40代は51%といずれも5割を超えています。全体でも約4割を占めています。東京駅八重洲口前にある地方移住の相談センターには、30〜40代の人たちの地方への転職を希望する相談が多く、「子どもが生まれたので田舎で育てたい。仕事が見つかるだろうか」といった相談内容です。そうした転職希望組の大半が「Uターン」といいます。Uターン組は実家などがあるため自力で仕事や住まいを探すことができるようです。事実、内閣府の世論調査でも、地方へ移住する条件として、「居住コストが安いこと」が2番目に挙がっています。(図参照)



北関東の大雨による水害で被害を受けられた皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。また、皆様方が一日も早く平穏な生活を取り戻されることを心よりお祈りいたします。

や就業者数が前年比でプラスとなっている「(前出の)まち・ひと・しごと創生基本方針2015」ことが追い風となっています。

いる。これは静かなる有事だ。昔の日本列島改造論やふるさと創生と今回の地方創生とどこが違うか。それは今度失敗したら、この国は終わりだということだ。」と話しています。

黒木代表のひとことコラム

2011年の震災以降に関東・首都圏から自主避難の意味合いも含め、Uターン候補地として「岡山」がしばしば注目されています。その理由は、災害が少なく、温暖な気候、そして交通網や医療も充実して事が要因のようです。

